



## う どん県。サミットは伊勢志摩だけ じゃない香川県。

来年5月26、27日に、日本で6回目となる主要国首脳会議（サミット）が三重県志摩市の賢島で開催されます。我が国では1979、86、93年の東京に続き、2000年に初めて地方で「九州・沖縄サミット」が開かれました。今ではほとんど見かけることのない、守礼門が描かれた二千円紙幣が発行されたことを思い出していただけるでしょうか。この九州・沖縄サミットでは、首脳会議に先立ち、福岡市博物館で蔵相会合が、宮崎市シーガイアで外相会合が行われたそうです。

次の2008年には岡山・香川両県で「瀬戸内サミット」として開催地誘致を図ったものの、「北海道洞爺湖サミット」に敗れました。同様に開催地誘致を表明した京都府・大阪府・兵庫県・新潟市・横浜市など全国8地域では閣僚会合が行われましたが、岡山・香川両県には縁がありませんでした。

今回の閣僚会合は10地域で行われ、倉敷市で教育相会合が、高松市で情報通信相会合が開催されます。四国では初めての開催で、情報通信相会合という言葉も私は初めて耳にするものです。開催地域の選定にあたり、全県的な「かがわ遠隔医療ネットワーク（K-MIX）」の取り組みが高く評価されたそうです。本誌に何度もご寄稿くださっている香川大学瀬戸内圏研究センターの原量宏特任教授を中心とする皆さまの長年の努力に、改めて敬意を表します。

47都道府県で最も面積の狭い本県で、このK-MIXの取り組みが進められた理由のひとつは、有人島が24島と全国7位であるためです。人が海と強く関わりながら生活している地域だからこそです。情報通信相会合の開催時期は3～5月中旬だそうなので、「瀬戸内国際芸術祭2016」はもちろん、本県が進める**里海**づくりも、世界に発信できればと願います。警備の問題をクリアできれば、「高松シンボルタワーの『かがわ国際会議場』を飛び出し、船上会議はどうでしょう」と夢想しています。（高橋 雅敏）